



311 県外避難者 について 考えよう

～子ども・若者の声～



2011年3月11日 東日本大震災発生
地震と津波、そして原発事故。
多くの人が住み慣れた土地からの
避難を余儀なくされました。

あれから10年。

当時は小さかった子どもたちが
成長した今、何を思っているのか、
その声を書き留めました。

本冊子は、Yahoo! 基金 2020 年度被災地復興調査助成プログラムの助成を受けて実施した「東日本大震災を経験した高校生・若者アンケートおよびヒアリング調査」をもとに作成しています。

311
県外避難者について
考えよう

～子ども・若者の声～

はじめに

～東海3県（愛知・岐阜・三重）にどれだけの人が避難した？～

東日本大震災は、巨大地震と大津波による甚大な被害に加え、原発事故が重なった未曾有の複合災害となり、多くの方々が県内・外への避難を余儀なくされました。東海3県に避難登録した方は、最多（2012年3月）で2,100人を超えました。この10年間で震災前に住んでいた地域に戻った（帰還）世帯や、他地域への転居、登録を辞めた世帯もあり、2021年3月時点で1,300人となっています。

年代別の被災者数が明らかになっている愛知県においては、2012年3月時点で、12歳（小学生）以下が全体の約30%を占めていました。また、10年を経た現在では、中・高・大学生の年代が増えています。

●愛知県の受入被災者登録制度に登録されている人数（年代別）

	世帯数	人数	0～12	13～18	19～29	30代	40代	50代	60代	70～
岩手	27世帯	49人	0人	7人	7人	5人	9人	0人	8人	13人
宮城	60世帯	124人	9人	17人	11人	19人	31人	14人	9人	14人
福島	183世帯	506人	67人	88人	61人	54人	115人	59人	22人	40人
茨城	12世帯	30人	5人	5人	4人	0人	10人	5人	1人	0人
他※	42世帯	115人	25人	24人	6人	5人	37人	15人	2人	1人
合計	324世帯	824人	106人	141人	89人	83人	202人	93人	42人	68人
			12.9%	17.1%	10.8%	10.1%	24.5%	11.3%	5.1%	8.3%

※青森 / 栃木 / 群馬 / 埼玉 / 千葉 / 東京 / 神奈川
(2021.4 現在 愛知県被災者支援センター)

目次

Story 1 避難時の状況は？	3
Story 2 避難先の住まいは？	5
Story 3 避難による家族関係の変化	7
Story 4 避難先での新しい学校への不安	9
Story 5 避難先での子どもたちの順応性	11
Story 6 避難先での新しい友だち	13
Story 7 子どもたちへの支援	15
Story 8 被災や避難の経験を伝える	17
Story 9 震災前の友だちとの関係	19
Story10 自分がいた場所・ふるさとへの今の思い	21
Story11 若者一人ひとりの今の思い	23
Story12 震災や避難を経験していない皆さんへ 若者からのメッセージ	25

参考資料

1. 東日本大震災概要	29
2. 東京電力福島第一原子力発電所事故	30
3. 放射線量マップ	31
4. 原発事故前後の基準値の違い (1ミリシーベルト→20ミリシーベルト)	32
5. 避難指示区域マップ(福島県)	33
6. 避難指示区域の違いは？	34
おわりに	35